

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局: J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 1 1

《トビイロウンカ対策について》

本年は、トビイロウンカの発生量が過去多発した 2013 年、2017 年に比べて多く、発生地域も広がっています。8 月下旬調査でも約 4 分の 1 のほ場が要防除水準を超え、福岡県農林業総合試験場（福岡県病害虫防除所）から、8 月 2 日に続き、8 月 23 日付けで 2 回目の注意報が発表されています。

今後、ほ場内で急激に増加し「坪枯れ」の発生が懸念されますので、十分に注意してください。

○県内の定点ほ場での発生状況（8 月 5 半旬）

	本年	平年	前年	2013 年 (多発生年)
10 株当たり払い落とし虫数（頭）	59.5	6.5	0.0	45.1
発生ほ場率（%）	87.0	46.5	0.0	71.7

- ・ 10 株当たり払い落とし虫数は要防除水準を超えており、発生ほ場率とともに、多発生年より多い。

〈防除上、注意すべき事項〉

【要防除水準】 トビイロウンカ：中老齢幼虫の合計数

- ・ 飛来後第 2 世代（8 月下旬～9 月上旬）： 1 0 0 頭/1 0 0 株以上
- ・ 飛来後第 3 世代（9 月中旬～下旬）： 1, 0 0 0 頭/1 0 0 株以上

- ・ 本年は複数回の飛来が確認されているため、様々な生育ステージのトビイロウンカが混在しています。既に本田防除を行ったほ場においてもその後の発生状況を確認し、要防除水準を超えたほ場では、早急に防除を実施しましょう。
- ・ 出穂後は薬剤が株元まで到達しにくくなるため、防除にあつては、薬剤が株元まで確実に届くよう丁寧に散布し、散布後に防除効果を必ず確認しましょう。
- ・ 本年度は降雨が多いため、いもち病の発生にも注意し、ウンカ類と併せて出穂前後の防除を徹底しましょう。
- ・ 降雨のため、粉剤及び液剤の散布が難しい場合は、粒剤の使用も検討しましょう。

- 薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を確認し、適切な薬剤散布を心がけましょう。

以上